

中央公民館でおばけやしき“恐怖の館”開催

8/28[Fri]



▲恐る恐るおばけやしきに入る子どもたち

夏の終わりに多久市中央公民館を舞台にしたおばけやしきを開催し、市内義務教育学校に通う1年生から9年生までの子どもたち92人が訪れました。

おばけやしきは、市職員が中央公民館で行う事業を充実させようと昨年から開催。会場では子どもたちを驚かせようと、幽霊の掛け軸や映像を流して恐怖の館を演じました。

参加者は「想像以上に部屋の中が暗く、急に驚かされてビックリした。また来年も機会があれば参加したい」と話しました。

選挙管理委員の小森さんが連合会表彰を受賞

9/1 [Tue]



▲市役所で行った伝達式で表彰状を手にする小森委員

多年にわたる選挙の適正な管理執行と明るい選挙の啓発、選挙制度の研究改善に尽力した功績をたたえて、多久市選挙管理委員会の小森弘委員（東多久町）が全国市区選挙管理委員会連合会表彰を受賞されました。

小森委員は平成15年、選挙管理委員に就任。以来17年以上にわたり委員を務められています。

市役所で行った伝達式で、表彰状を受け取った小森委員は「公正公平な選挙事務の執行が私たちの最も重要な仕事。それを第一に職務にあたってきたので、認められて嬉しい。今後も変わらず職務に励み、最後まで全うしたい」と受賞の喜びを話しました。



YouTube で動画が見れます！

多久ロータリークラブが児童センターへ遊具を寄贈



9/3 [Thu]

多久ロータリークラブ（前田博彦会長）が多久市児童センターあじさいへ、ままごと用の遊具など計7点を贈りました。今回の寄贈は、ロータリー財団の地区補助金を活用した事業で、遊具はあじさいの職員と協議して決定されました。

あじさいで行った寄贈式には、施設利用者や市関係者などが出席し、横尾俊彦市長へ目録を手渡した同クラブの福地孝司財団委員長は「将来の多久市を担う子どもたちに何かしてあげたいという強い気持ちから今回の寄贈に至った。これからも地域のお役に立てる支援を継続していきたい」と笑顔で話しました。



▲寄贈式でテープカットに臨む横尾市長（左）、利用者代表の吉永琴翔ちゃんと香織さん（中央）、福地財団委員長（右）

